

【行方市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）等を踏まえ、行方市では「新たな価値を創造し、郷土と社会の未来を切り拓く人間の育成」を目指し、個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実に重点を置いている。具体的には、授業スタイルやこれまでの教育実践の蓄積を、1人1台端末・クラウドツールなどのICT活用と掛け合わせることで、児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて、いつでもどこでも学ぶことができ、ダイバーシティ社会で一人ひとりの能力を十分に発揮して多様な学び且つ主体的・対話的で深い学びができることを目指す。

2. GIGA第1期の総括

行方市では、これまで1人1台端末の整備とともに、校内などの通信ネットワークの整備を進めてきた。また、ICT支援員の助言の下、授業での活用も徐々に進んできており、児童生徒同士で意見交換を行い、問題解決に取り組むといったことも行われている。

一方で、教職員のICTを活用した指導する能力については、教職員の意識・スキルといった面で学校内又は学校間での格差がある。今後、より一層1人1台端末の利活用を進めていくには端末、通信ネットワークや周辺環境等の整備に加え、教職員のICTを活用した指導力の向上が求められると考えている。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末の利活用を進めていくにあたり、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持していくとともに、1人1台端末の利活用方策として以下について検討していく。

- 1: ICTを日常的に活用し「主体的・対話的で深い学び」の実現の推進を目的として、各学校から選出した教職員で構成されるICT活用推進委員会を設置し、定期的に本委員会を開催し、ICTを活用した公開授業の視察やICT活用教育アドバイザーによる講師指導などを行う。
- 2: ICT支援員や学校DX支援リーダーの協力体制を整備し、教職員の要望に合わせて、各学校に毎月定期的に訪問できる環境を作る。
- 3: 教職員向けにクラウドを活用した授業の研修を実施し、共同編集や他者参照の学びを教職員が実際に体験し、1人1台端末を活用した個別最適な学び、協働的な学びを授業で行うことができるようにする。
- 4: 特別支援学級、通級による指導の充実として、個々の障害の状態等に応じたICTの活用による指導・支援の充実を図る。